

令和3年度学校自己評価システムシート（県立松山高等学校）

目指す学校像	建学以来の伝統である「文武不岐」に基づき、幅広い教養と礼節を備え、社会に貢献できる品格あるリーダーを育成する。
--------	---

重点目標	1 「チーム松高」としての組織的指導力に基づき、生徒の学力向上に努め、進学実績を一層向上させる。 また、新型コロナウイルスによる教育活動への影響を最小限に抑えるため、様々な取組を実施する。 2 自己の在り方生き方を常に考えさせ、心身ともにたくましく、高い目標にチャレンジし続ける生徒を育てる。 3 本校の良さを積極的に発信し、保護者・地域・同窓会との「絆」を深め、一層信頼される学校づくりを進める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者(書面)	5名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	0名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (1 月 2 7 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	<p>【現状】 国公立大学合格はここ数年、増加傾向にある。普通科普通クラスの奮起もあり難関私立大学合格が増大した。ICTの一端として動画を600本以上配信しコロナ禍でも教育活動を継続した。</p> <p>【課題】 感染防止対策を徹底しながら教育活動を継続する。学年が上がるにつれて第一志望への挑戦を諦めてしまう生徒が少なくない。SSHにおける探究の取組を学校全体に普及させ、主体的に学ぶ力を育成する。</p>	<p>第一志望を目標に努力を続ける生徒を育成するため、コロナ禍でもICTを含めあらゆる方策を効果的に実施し、教育の質と量を維持し進学実績を向上させる。</p> <p>SSH事業をととして主体的に学ぶ生徒を育成する。</p>	<p>①全生徒とGoogleClassroomで繋がり、空き時間時間の活用を合わせ、学校と家庭での学習を充実させ学力向上を図る。 ②授業及び総合的な探究の時間において、自律的に探究する姿勢を身に付けさせる。 ③模試分析及び面談による一人一人に応じた指導と組織的な小論文指導・面接指導を実施する。 ④進路の保護者向け説明会・研修会・動画配信を行うとともに、三者面談期間中に3年生保護者対象の相談コーナーを開設する。</p>	<p>①対面授業、感染症対策の一環としてのオンライン授業、課題指示、進学補習、自学による学習量の増加 ②学力の向上や自己の成長が実感できる授業が行われたと感じる生徒の割合 ③国公立大学、難関私立大学(早慶上理 GMARCH)の合格者数 ④保護者の進路指導に対する満足度</p>	<p>【大学進学に向け生徒と教員が邁進】 ①GoogleClassroomは全生徒に定着し活用が進んだ。松高塾は昨年の1.5倍のべ121講座を開講した。自習室を10月より段階的に再開したため利用は限られた。 ②総探で東松山市と連携し、発表を含めた探究のプロセスを充実させた。 ③大学入試は総合型、推薦型で国公立5名、難関私立25名合格し、一般で国公立に昨年比15%増80名が臨む。 ④三者面談期間中に新規取組により工夫を凝らしたが、保護者の満足度は横ばいで肯定的回答が72%であった。</p>	B	<p>【課題】 他力から自力への脱皮と授業以外の学習時間の増加。保護者に伝え、進路の動きを知っていただくこと、期待される学力を育てること、希望する進路を実現すること。</p> <p>【改善策】 ・学校や家庭での学習習慣の確立と朝学習の奨励 ・学年状況に応じた進路情報の保護者に対する発信</p>
2	<p>【現状】 多くの生徒が基本的な生活習慣を確立しており校内での挨拶がよく行われている。3年生になっても9割近くの生徒が部活動に加入しており、県の上位はもとより全国を目指す生徒が多い。一部に心に悩みを抱える生徒が見られる。</p> <p>【課題】 登下校マナーの改善、部活動指導体制の発展、生徒相談体制の一層の充実を図る。</p>	<p>各活動をとおして、心身ともにたくましい生徒を育成する</p>	<p>①全教職員による全体指導と個別指導、計画的な登校指導や交通安全指導により、規範意識や交通マナーをさらに確立させる ②生徒相談体制を充実させ、SC、SSW、特別支援コーディネーター等の外部機関との連携を強化する。 ③生徒会行事等の在り方、実施方法などに工夫をし、臨機応変に対応することで実施し、生徒の主体的行動力を育成する。 ④部活動の活動環境・内容・実施方法など、あり方の検証を加え、緻密な指導体制を確立し、部活動を活性化させる。</p>	<p>①丁寧な個別指導による健全な心と規範意識の醸成 ②SC、SSW、特別支援コーディネーターとの連携による効果 ③生徒主体の学校行事や地域への取組と参加状況 ④生徒の部活動加入率、全国・関東への代表数、生徒や保護者の期待に応える活動</p>	<p>【制約の中で生徒はたくましく成長】 ①登校指導を10回実施した。登下校のマナーに関しては次年度以降も継続して実施する必要がある。 ②12回SCを定例で要請した。SSW、特別支援コーディネーターは臨時に依頼した。連携と共有が進展した。 ③コロナの状況に合わせて、文化祭は時程を分けて実施し、修学旅行は方面日数を減らして実施し、生徒を育てた。 ④県の部活動制限見直しにその都度従いつつ、全国に6部、関東に6部が進出し、時間的制約の中で活躍した。</p>	A	<p>【課題】 「文武不岐」のもと、勉強に対する高い目標と、部活動に対する高い目標の維持。様々な事情、様々な特性を抱えた生徒への丁寧な対処の継続。</p> <p>【改善策】 ・勉強と部活動の両方に打ち込むための条件整備 ・学習以外で個別に対応が必要な生徒への支援と専門家の活用。</p>
3	<p>【現状】 HPによる情報配信やオンラインによる説明会等の実施により本校の魅力を積極的に発信しているが、入試倍率等の成果に現れていない。</p> <p>【課題】 生徒募集に新たな発想を加え、入試倍率を回復させる。</p>	<p>本校の魅力を高め情報発信するための対応策を全教職員で検討・実施し、入試志願倍率を向上させる。</p>	<p>①HPの更新をよりタイムリーに行うなど本校の良いところを効果的かつ積極的に情報発信する。 ②学校説明会等の在り方を検討し、中学生や保護者が望む広報活動を行う。 ③体験授業、部活動、地域行事等が実施できるかを見極めながら、地域や地元小中学校との連携を強化することにより、本校の良さを広報する。 ④塾主催の説明会への積極的な参加、塾訪問や塾対象学校説明会により生徒募集を強化する。 ⑤生徒・保護者対象のアンケートの集計と分析により、選ばれる学校づくりを検討し実施する。</p>	<p>①HPの更新回数とアクセス数の増加 ②効果的な方法により学校説明会を実施した回数と参加者の満足度 ③地域との連携数とその内容 ④オンラインを含む各説明会への参加状況 ⑤生徒募集を活性化することによる志願状況の変化</p>	<p>【人と人を繋ぐ活動を推進】 ①HPのアクセス数が昨年度の38%増の1日平均約4,000件となった。 ②オンライン3回に加え説明会等を9回実施し、対面型体験型を増やした。 ③2年ぶりに比企一周駅伝を開いた。地域ブランドCMを生徒が作成した。 ④7月に塾対象説明会を本校で実施した。中学校や塾の訪問を強化した。 ⑤生徒の78%、保護者の95%が本校に入学して概ねよかったと回答した。</p>	A	<p>【課題】 総合的な探究の時間を中心とした地域との連携及び地域への発信の定着。生徒募集に向け中学校や塾との連携の強化。</p> <p>【改善策】 ・毎年実施可能な総探プログラムの開発 ・中学校や塾の先生との対面による情報交換の継続</p>

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和4年2月22日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>中学生の進路選択のひとつのキーワードが大学進学率である。進路の情報提供と指導、推薦入試の基準や過去の実績の周知を入学早期より複数実施し、将来像を自覚し覚醒させ、希望大学の見学や松高OBの大学生を訪問するなど、具体的な自己将来像を持たせることが望まれる。保護者にも動画を交えて学校HPの活用により情報提供することが有益である。第一志望に合格することがベストで、叶わなかった場合は浪人するくらいの気概を持たせたい。進学等に関し英語力の向上は必須である。コロナ禍でICTへの取組が進化していることが評価できる。オンラインと対面授業の良い面をさらに追求してほしい。保護者会・三者面談などZoom等で回数を増やし、個々の問題に深く携わる方法が考えられる。日々の授業の工夫改善の方策を書きこむとよい。</p> <p>学校関係者全員による挨拶の励行、学校全体・生徒個々・PTAによる高い目標達成への努力、東松山地域でのボランティア活動の取組が心の醸成に繋がると考える。様々な事情、特性を抱えた生徒の増加に伴い、生徒指導、特に生徒相談について引き続き丁寧な指導を求めたい。生徒が心身共に健やかに学校生活を過ごすために、マインドフルネス、昼食後20分睡眠など、リフレッシュできる新たな試みが必要ではないか。部活動の活躍は卒業生の楽しみである。生徒の良好な下校状況は生徒指導の賜である。</p> <p>中学生が上級学校の進路学習に取り組むときの入口がHPである。進学状況、先生や生徒の学校生活の様子や活動(授業風景・学校行事・部活動・松高塾・SSH・支部PTAなど)の情報は魅力として映る。明朗な学び舎で楽しそうに学習し合う人の姿を広報し闊達な印象を与えたい。真面目なだけでなく面白いHPも期待する。市内中学校の掲示板の松高コーナーは良い取組である。市内の公共施設に学校のPR版を置くべきである。</p>	